

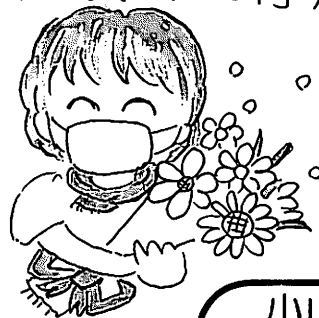
# コミュニティ・スクール絹

小山市立絹義務教育学校 地域連携部 第35号 (令和3年8月発行)

残暑厳しい毎日ですが、いかがお過ごしですか。8月は「ふるさと学習」についてお知らせします。  
7月号の呼びかけに応えてくださった方が、今年度から講師として地機織りの指導に入ってくださいることになりました。学校にとって、こんなに嬉しいことはありません。  
これ、改めて「ふるさと学習」にご尽力くださる講師の方々を紹介します。

学年	活動	R3年度の講師の方々	
1・2年	養蚕・収繭	阿久津玄司せん・野沢正義さん	
3年	煮繭・真綿がけ	永田川順子せん	太田仁美さん (紬織物技術支援センター職員)
4年	糸つむぎ	塚原アイせん	石井優利奈さん
5年	墨付・緋くくり	直井由夫せん・小島義晴さん	
	染色	大久保雅道さん	今年、新たにいらっしゃいました。
6年	管巻・地機織り	塚原千鶴子せん・石川美津子せん	
7年	着付	福田悟子せん	

今まで地機織りを教えてくださっていた田村ナミ子さんは、ご勇退となります。お世話になりました。



マスク越しにも、優しさが伝わってくる、笑顔のステキな田村さん。ありがとうございました。

農園ボランティアの大橋さん  
剪定ボランティアの上野さんと  
吉田さんは、夏休み中も、学校の畑や樹木の様子を心配し、活動かをしてくださいました。ありがとうございました。



小山市立絹義務教育学校

〒323-0155

小山市福良2240-1

電話

0285(49)0141

ファックス

0285(49)2764

E-メール

kinugimu@oyama-tcg.ed.jp

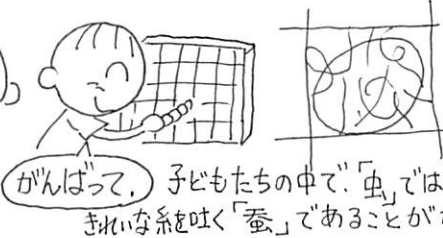
前期教頭

海老沼真弓

# 絹義務ふるさと学習

1・2年生 蚕の育ちに関わる。

給桑・上簇・収繭を体験し、蚕が繭になる過程を学びます。



子どもたちの中で、「虫」ではなくきれいな糸を吐く「蚕」であることがわかってきます。

3年生 煮繭

自然に、子どもたちは「蚕」ではなく「繭」であることを受け入れていきます。



真綿かけ



5つ分の繭をのばして、ふんわりとした真綿にしていきます。難しい技術がいることがわかります。

このときに感じる、香りや手の感触は、体験した者だけのものです。

4年生 糸つむぎ

白い真綿をつむいで糸にします。蚕が出す細くて長い糸は、ここでつむいで、しっかりした糸にしていくことを学びます。



どの工程も、一人一人がきちと経験できるように計画・準備されています。



自分で糸いだ糸は、糸まきに巻きつけて記念に持ち帰り封。

5年生 染色

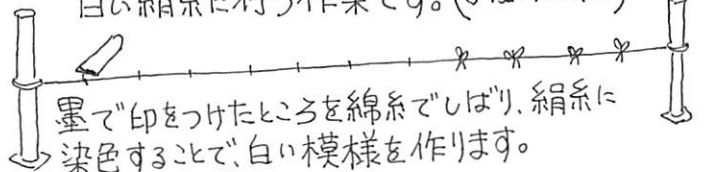
3年生で作った角真綿に色をつけます。



染料を手でたたいて染み込ませています。色のついた真綿は6年生で使います。

墨つけ・糸井くくり

白い絹糸に行う作業です。(学校では綿糸)



墨で"印"をつけたところを綿糸でしばり、絹糸に染色することで、白い模様を作ります。

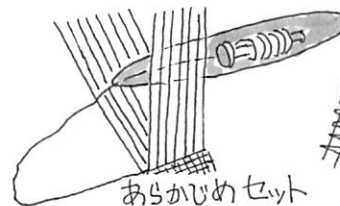
6年生 管巻き

自分で染色した真綿を糸いで管に巻いていきます。

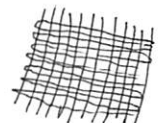
4年生で体験した「糸つむぎ」の技術が生かされます。

地機織り

自分の糸いだ糸を、織っていきます。



あらかじめセットしている糸従糸はカラフル。



世界に一枚きりのコースターのでき上がりです。

受け継がれてきた技術や知識は、絹地区の財産です。「ふるさと学習」は、地域の方々の協力あつての学習です。

この糸は、糸織り機に横糸としてセットされます。太さを(糸の)均一にできると、糸織り上がりが美しいのだそう。



6年間の「ふるさと学習」は、ここで一つの節目となります。